

# 国土技術政策総合研究所共同研究 「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」 成果報告会



平成22年度～24年度に実施された標記共同研究の成果として、国総研資料「**浜崖後退抑止工の性能照査・施工・管理マニュアル**」共同研究「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」報告書 本編一(案)を策定致しましたので、**報告会を開催**致します。

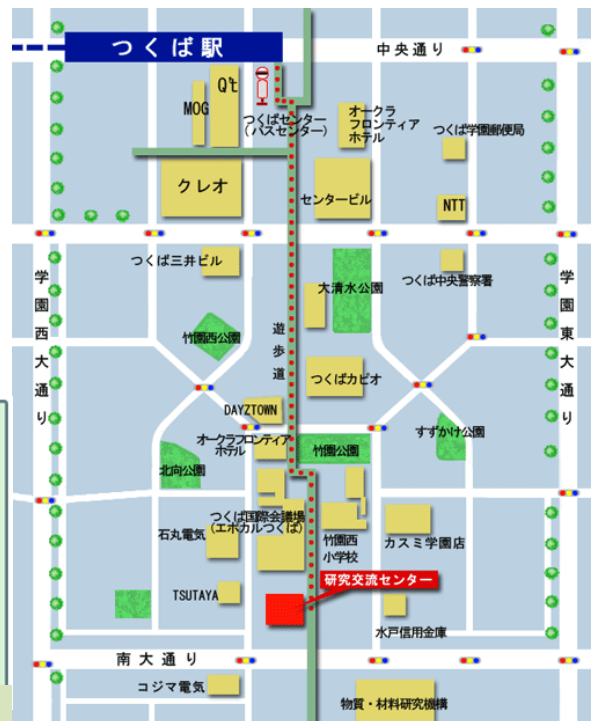
「浜崖後退抑止工」は、砂袋詰め工(以下、サンドパック(SP))を用いて浜崖を守る工法です。  
サンドパック(SP)は、現場砂浜又は養浜材料となる砂を土木用繊維でできた大型の布袋(パック)に充填するものです。

主催: 国土技術政策総合研究所、ナカダ産業(株)、前田工織(株)、三井化学産資(株)  
協賛: 建設コンサルタンツ協会海岸・海洋専門委員会、国際ジオシンセティックス学会日本支部

マニュアルは、報告会の1週間前に国土技術政策総合研究所ホームページの「研究部のページ」内河川研究部海岸研究室にてPDFにて公開致します。

本報告会は土木学会・建設コンサルタンツ協会のCPDプログラムとして認定されております。

日時: 平成25年7月2日(火) 13:30-16:00(受付13:15より)  
場所: 文部科学省研究交流センター(つくば市竹園2-20-5)



TX	秋葉原駅	つくばエクスプレス 快速 45分	つくば駅	徒歩 20分	研究交流センター
	上野駅	常磐線 特急 43分	土浦駅		
JR+バス	上野駅	常磐線 各停 60分	ひたちの牛久	バス約 25分	研究交流センター
		常磐線 各停 60分	ひたちの牛久	バス約 25分	
高速バス	東京駅 (八重洲南口)	つくば号 65分	つくば駅	徒歩 20分	研究交流センター

駐車場70台分ございます(当日先着順とさせていただきます)

## ○参加申込み

下記メールアドレスに氏名と所属を記入したメールを送付してください(7/1締切)。  
会場の都合から定員170名とさせていただきます。

[kaigan@nilim.go.jp](mailto:kaigan@nilim.go.jp)

## ○お問い合わせ先

国土技術政策総合研究所 河川研究部 海岸研究室  
Tel.029-864-4874(担当:野口)



# プログラム

- 13:30 開会の挨拶 国土技術政策総合研究所 研究総務官 藤田光一
- 13:35 「浜崖後退抑止工の性能照査・施工・管理マニュアル」紹介  
 第1章 基本方針  
 第2章 浜崖後退抑止工の照査  
 第3章 サンドパック袋材の性能照査  
 第4章 施工、管理、点検・維持管理
- 14:20 休憩 (会場内にポスターを展示しております)
- 14:40 パネルディスカッション ー共同研究の成果と課題、今後の期待についてー  
 座長・話題提供：東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授 佐藤慎司  
 パネラー：海岸管理者、建設コンサルタント、施工業者、海岸利用者、国総研・メーカー
- 16:00 閉会の挨拶 共同研究メーカー代表 前田工織(株) 常務取締役 前田尚宏

国土技術政策総合研究所  
 前田工織株式会社  
 三井化学産資株式会社  
 ナカダ産業株式会社

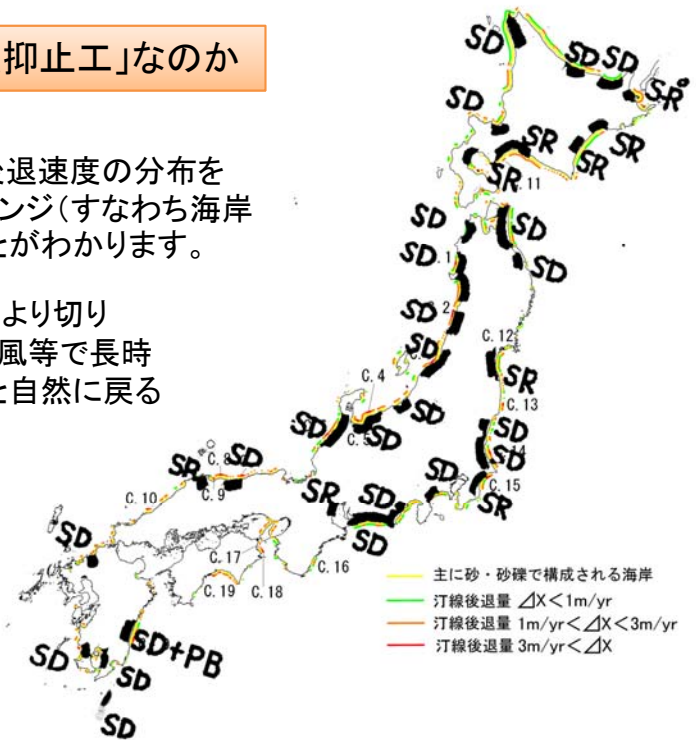
## なぜ「浜崖後退抑止工」なのか

### 砂丘が危ない

右図は、長大な砂丘・砂浜と日本沿岸の汀線後退速度の分布を重ねた図です。図から、砂丘の前面で赤やオレンジ(すなわち海岸侵食が起きている)になっている場所が多いことがわかります。

浜崖とは、海岸の砂丘等に波が衝突することにより切り立った崖面を形成する現象です。特に砂丘は、風等で長時間かけて形成されます。ひとたび削り取られると自然に戻ることは難しいものです。

→  
 海岸研究室調査の海岸侵食量(当所HP掲載)と我が国の長大砂丘・浜堤の分布  
 福本 紘(1989)地理学評論62A-2 pp.108-128.  
 を重ね合わせた図  
 黒太線が長い砂丘の位置



主に砂・砂礫で構成される海岸  
 汀線後退量  $\Delta X < 1\text{m/yr}$   
 汀線後退量  $1\text{m/yr} < \Delta X < 3\text{m/yr}$   
 汀線後退量  $3\text{m/yr} < \Delta X$

## 浜崖(砂丘)保全の重要性

砂丘は集落形成の場を提供したり、高波浪・津波・しぶきや塩害から背後地を守る自然の防災施設としての役目を果たしています

